



七里っ子

【学校教育目標】

確かな学力 豊かな心
健康な体 郷土愛

道志小学校 学校だより 令和6年 3月8日

文責：校長 佐藤龍文

ふるさとの未来に役立つアイデアを考える ～ふるさと学習×プログラミング～

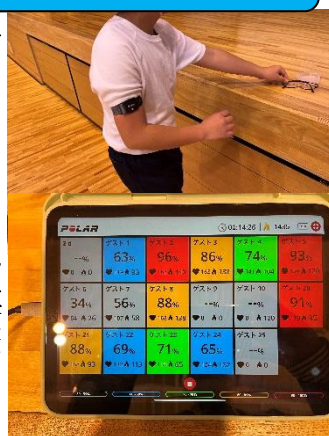
2月27日と29日に(株)スクーミーの松嶋陸先生をお招きして、プログラミング学習(対象は3～6年)を行いました。これは、令和のやまなし教育活動モデル事業の一環としての取組で、村の未来に役立つアイデアを考えることをテーマに、プログラミングを活用して主体的に課題解決を図るというふるさと学習です。

具体的には、道志村の利点や課題について考えた後、スクーミー社のマザーボード(電子回路基板)とセンサー、出力機器を使って、持続可能な村づくりに役立つ仕組みのプログラムづくりを行いました。各学年の児童が考えたアイデアの中から学年全体で学ぶセンサーを決め、3年生は温度センサー、4年生は振動センサーとタッチセンサー、5年生は土壌水分センサーを使ってプログラミングを行いました。6年生は基本的なプログラムの構造を学習した後に、一人ひとりが選んだセンサー等を使って個別のプログラミングに取り組みました。どの学年の子ども達も、自分が指定した条件でプログラムが作動するかを確かめながら、楽しんで学習を進めていました。道志村の未来のためにクレンソンの水温管理をする仕組み、害獣から森や農作物を守る装置、村の植物を観光客に説明する仕組み、外灯をコントロールするシステム、速度違反の自動車への警告表示をするシステム等、子ども達からは様々なアイデアが出されました。Society5.0の時代に向けて意義のあるプログラミング学習ができたと思います。



自分の身体のデータを運動に生かす ～心拍計を活用した持久走～

体育の時間に、子ども達は上腕部に心拍計を装着して持久走を行っています。個別の心拍数のデータに基づいて運動強度を調節し、安全に活動できるように取り組んでいます。児童は走りながらプロジェクターでスクリーンに拡大表示された画面の中の自分の数値を確認することで、「もう少し速く走ろう」とか「オーバーワークだからスピードを落とそう」等と判断します。これは、自分の身体を主体的にコントロールできるようにする力を高める目的で取り組んでいるもので、令和のやまなし教育活動モデル事業の一環として実施しています。何度も繰り返し行うことでやり方に慣れ、自己調整力を高めることにつなげていきたいと思っています。子ども達も楽しんで取り組む姿が見られ、今後に向けてとても楽しみです。



学校を支えてくださる皆様に感謝!

雪が降った日の早朝、七里緑化さんと志村工業さんの職員の方に、児童が通る通学路のグリーンベルトや学校の駐車場の除雪をしていただいております。以前は、教職員が総出で雪かきをすることも多く、早朝からの作業が大変でしたが、教育委員会を始め、村当局のご理解とご支援のおかげで、安心して学校運営をすることができています。国道の除雪等で真夜中の作業も多く、大変な中を学校のためにご尽力いただいている皆様に、この場を借りまして深く感謝申し上げます。